

SHINGON HORONIC

色は匂へど

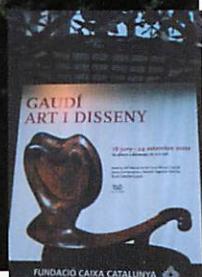
IRO

WA

NIO

E

DO



スペインに見る究極の村おこし

平成十五年正月吉祥日発行 卷二十五

一味美膳をなさず

素晴らしい料理は

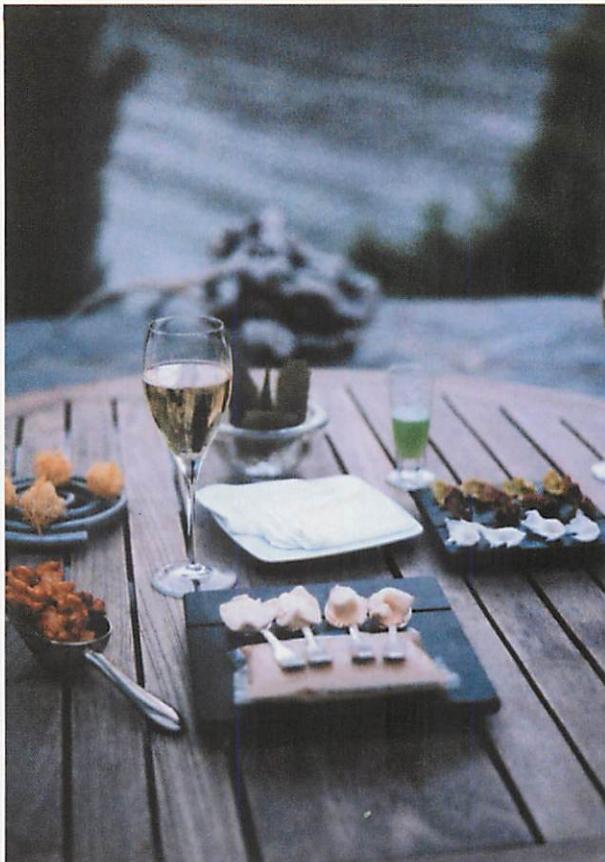
一色の味で作ることは
出来ない

美しい音楽は

一音から

織りなすことは出来ない

弘法大師は世界でも希な
庶民のための総合大学を
創られた時、このように
云われ
総合的に学ぶ事が
人に深みと幅を育むことを
説かれた

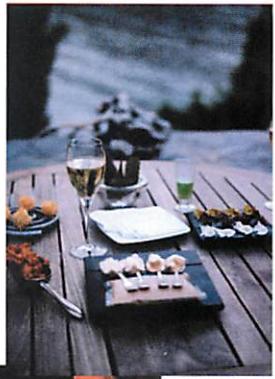


編集主幹

阿部龍樹

特集
スペインに見る究極の村おこし

3



『弘法大師墨蹟聚集』の会報から
催子玉座右銘

11



お釈迦様真理の花束



13

心の絵言葉
蓮池の鬼（ジャータカ物語より）

9

情報コーナー



15

現代の道しるべ

18

特集 スペインに見る究極の村おこし

3

スペインの北、フランスとの国境にも近いところにビルバオという都市がある。ビルバオがいるバスク地方は独特の文化をもち、いまだにスペインからの独立を訴えていたりする。

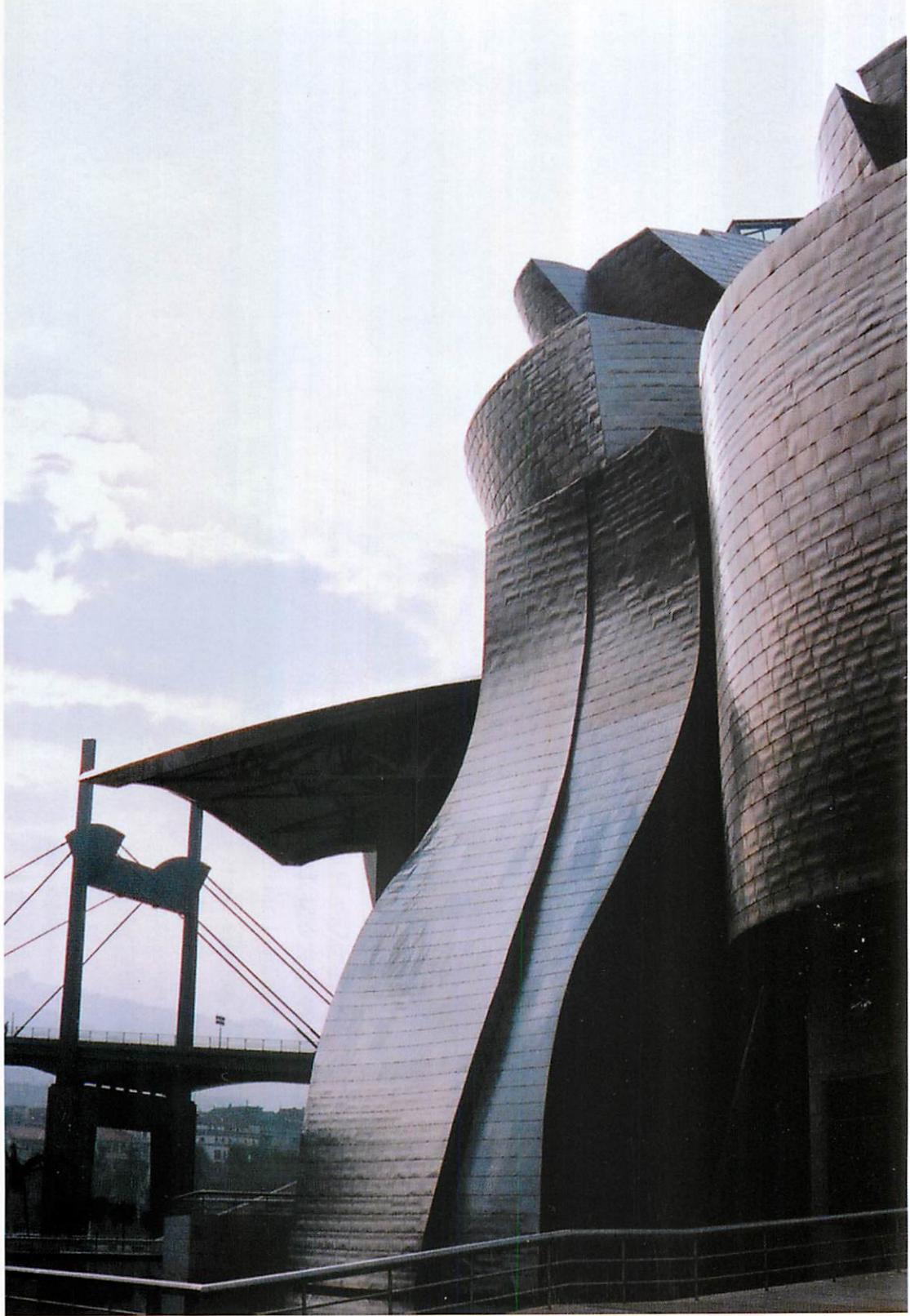
かつては日本の川崎のような工業都市で、工場から排出される煤煙で町中が黒く沈んでいたという。

工業が衰え街の活気が消えた時、ここに美術館建設の話が舞い込む。

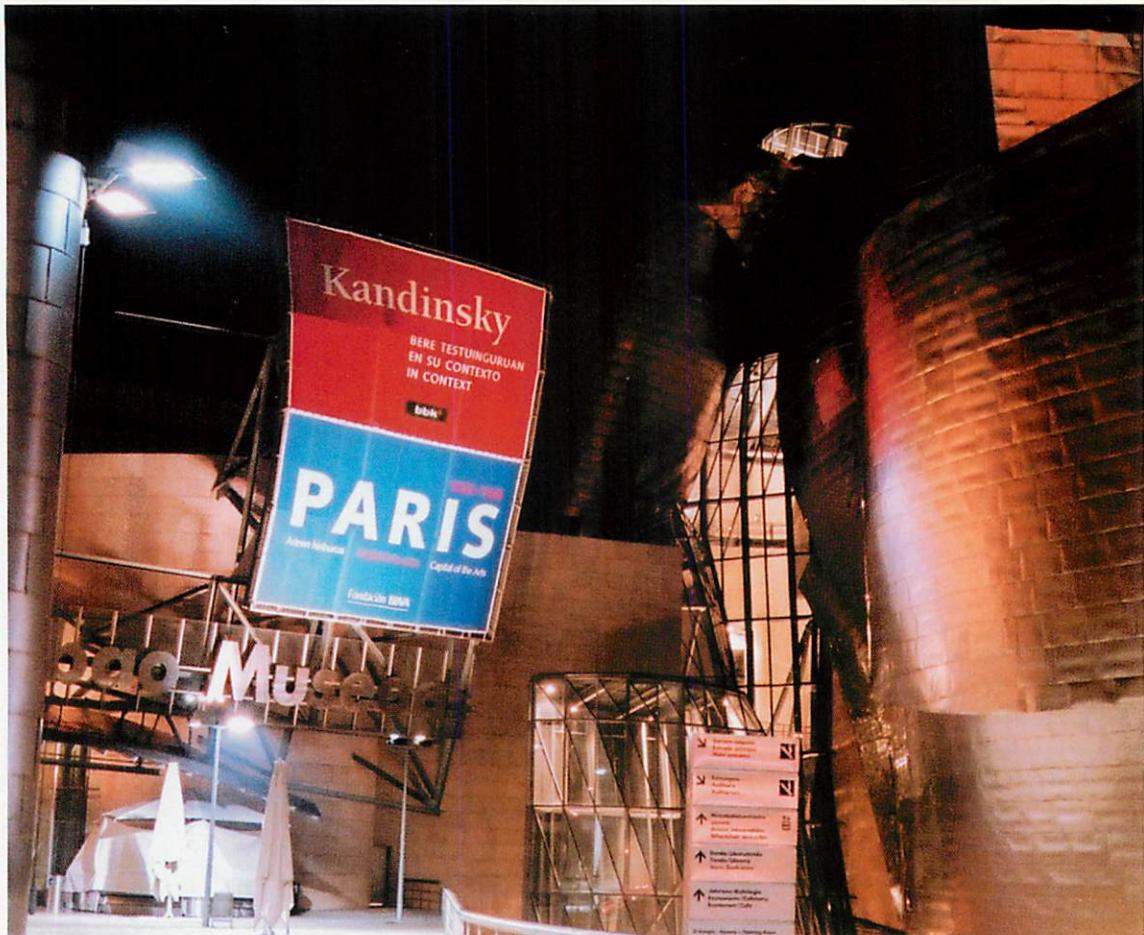
美術館の名前はグッケンハイム美術館。ニューヨークにその美術館はあり、フランク・ロイド・ライト設計だ。最上階までエレベーターで上がるとあとは螺旋状に建物をゆっくり降りるスロープに作品が並べられているので疲れることがない。しかし展示される作品は限られてしまう。折角の収蔵品を死蔵させたくないというグッケンハイム美術館は世界にグッケンハイムを開くことを計画した。

その第一号がビルバオだった。

川沿いの広大な敷地を舞台にコンペが行われ鬼才フランク・O・ゲーリーの案が採用された。現代建築の多くがアルミやガラスのどちらかというと安っぽく作りやすい素材が偏重される中でチタンをふんだんに使ったその意匠は目を見張る。



33,000ピースのチタンに覆われたグッケンハイム。チタンの一枚一枚が微妙なうねりを持ち全体に複雑な表情を与える。



深刻な不況にあえいでいた街がこのプロジェクトで蘇った。ビルバオはこの美術館を中心に街全体を歴史と調和する近未来都市というコンセプトで再開発を進めている。美術館の側には歩道を強化ガラスで敷き詰めた美しい歩行者専用の橋が出来、地下鉄も建設された。

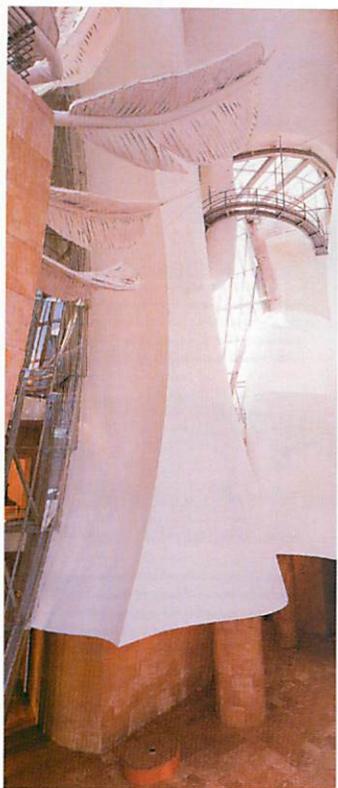
その地下鉄の設計には「香港上海銀行」の設計などで知られるイギリス人建築家ノーマン・フォスター卿を起用。駅の入り口から券売機、エスカレーターから列車まで統一のとれた美しいデザインが人を惹きつける。

今、街はまさに再開発の途上だがすでに美術館を訪れた人の数は五百万人を超えた。

世界でも最も成功した村おこしとして今ビルバオは大きな注目を集めている。

この美術館の建設費用は約百億円。ロシアに建設する日本大使館が百億円。愛知県立美術館が六百五十億円。金額だけで比較することは難しいが、一つの美しい美術館建設により街全体が美しく復活し経済的な波及効果まで考えると、もつとも成功したプロジェクトといえる。

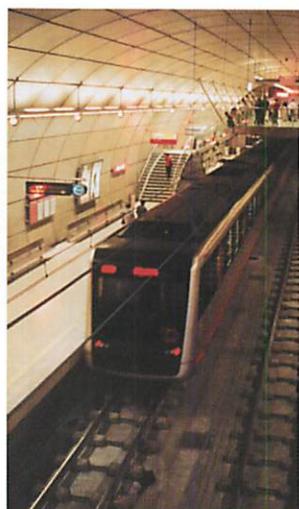
そしてこのグッケンハイム美術館の日本建設が正式に決定された。



内部は古い都市を象徴する石材をふんだんに使

明るく伸びやかな空間に仕上がってい

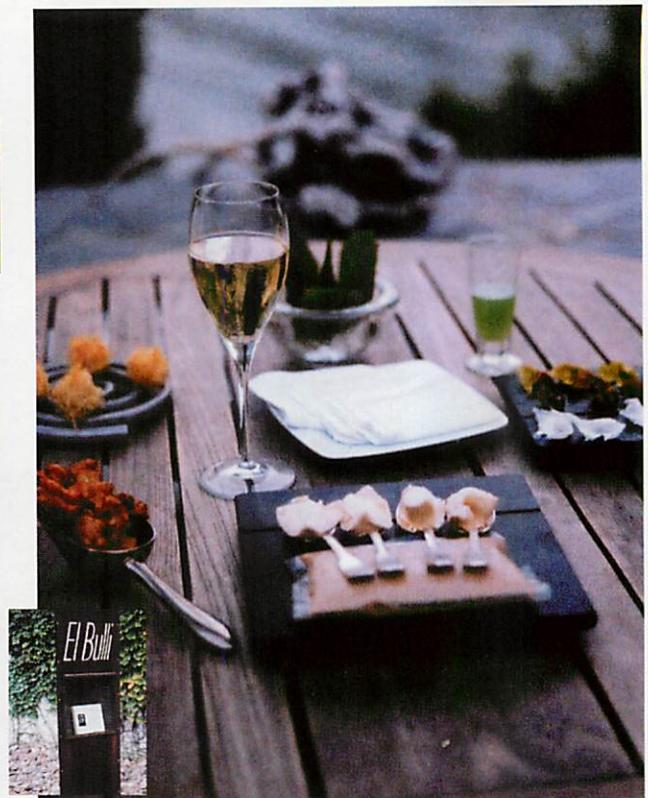
る
19ある展示室のすべてに自然光が降り注ぐ



近未来都市を思わせるノーマンフォスター卿
デザインの地下鉄

再会発中の黒くすすけたビルも
このように外側を残すことで歴史的
な景観も保たれる

エルブジという小さなレストラン



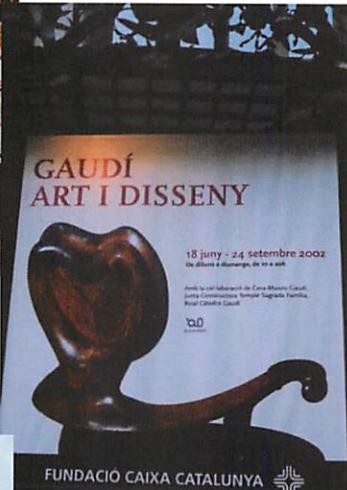
上 海に面したテラスでのアペリティーフ
左 遊び心溢れるデザート

スペインの経済の中心地バルセロナから北へ車で二時間半行くと口サスという小さな海沿いのリゾートがある。そこからさらに二十分ほど走り小さな峠を越えるとエルブジという小さなレストランがある。かつてある人の別荘をレストランにして席数はわずか四十五席。しかし厨房のスタッフを初め五十名以上のスタッフがゲストをもてなす。四月から九月までの半年しか店は開かない。あとの半年はひたすら料理の研究をするという。スペインのレストランでははじめて三ツ星を獲得し、シェフのフェラン・アドリアは今や若き天才として日本にもその名前が伝わっている。そしてフェランは今年あこがれの日本の地を踏み、日本料理を堪能したという。今年はエルブジ二十五周年という記念の年でかつてのメニューの中からベストなどをそろえたという品々の数はデザートまで含めるとなんと二十五品。海に面した心地よいテラスで八時に始まつたアペリティーフからテーブルに移つての食事が終わったのは真夜中を大きく回つていたが、一品一品の皿の美しさと珍しい食材の組み合わせや、未体験の食感を楽しみ時間のすぎるのも忘れた一夜だった。料理の新しい可能性を示すフェランの来年のテーマは日本料理になりそうでわくわくする。小さなレストランでも極めれば世界中から人が来て村が活性化でき

る。 ゾートがある。そこからさらに二十分ほど走り小さな峠を越えるとエルブジという小さなレストランがある。かつてある人の別荘をレストランにして席数はわずか四十五席。しかし厨房のスタッフを初め五十名以上のスタッフがゲストをもてなす。四月から九月までの半年しか店は開かない。あとの半年はひたすら料理の研究をするという。スペインのレストランでははじめて三ツ星を獲得し、シェフのフェラン・アドリアは今や若き天才として日本にもその名前が伝わっている。そしてフェランは今年あこがれの日本の地を踏み、日本料理を堪能したという。今年はエルブジ二十五周年という記念の年でかつてのメニューの中からベストなどをそろえたという品々の数はデザートまで含めるとなんと二十五品。海に面した心地よいテラスで八時に始まつたアペリティーフからテーブルに移つての食事が終わったのは真夜中を大きく回つていたが、一品一品の皿の美しさと珍しい食材の組み合わせや、未体験の食感を楽しみ時間のすぎるのも忘れた一夜だった。料理の新しい可能性を示すフェランの来年のテーマは日本料理になりそうでわくわくする。小さなレストランでも極めれば世界中から人が来て村が活性化でき



街のいたるところにBAR(バル)というカフェがある。
そろえる軽食(タパス)は店ごとにそれぞれ特徴があり
見ているだけでも楽しい。



今年はスペインが生んだ天才設計家
ガウディの生誕150年。

ガウディイヤーということで、カーサミラなどの内部も一般に公開された。



花が咲き乱れるガウディ設計のグエル公園

いまだ建設中のサグラダファミリア
日本の彫刻家も活躍している。



スペイン・カタルニアの首都バルセロナ。多くの天才を生んできた。

ピカソ、ミロ、ガウディ、そしてチエロの名手カザルス。

カザルスがコンサートのアンコールで必ず奏でた「鳥の歌」は
このカタルニア地方のもの。

カタルニアは非ヨーロッパ系の言語を持ちその言語感覚が
天才を生み出すような気がする。

空海の天才も言語が大きな要素を占めているように。

心の絵ことば一

蓮池のおに

絵 美薫

むかしむかし森に日照りが続きまし

た。川の水はかれ水なし川となり、多くの動物が水を求めて森を捨て旅に出ました。

森に住む猿の一族は辛抱強く雨を待っていました。猿の一族の王様はとても賢くみんなを導いて来ましたから、猿の仲間達は王様の言いつけを守つて喉が乾いても我慢していました。

しかしついに王様が言いました。

「みんなよく我慢してくれた。し

かしこれだけ待つても雨は降らないかった。いよいよ私たちも、このふるさとの森を離れ水を探す旅に出よう。森を離ることはとてもつらいと思う。しかし生きることが一番大切だから、みんなで水を探す旅に出よう。」

ついに猿の一族が動きました。するとそれまで動かなかつた森中の動物が一緒に旅に出ました。他の動物も猿の王様の言葉を待つていました。

猿の王様について猿の一族が先頭です。その後にはゾウやトラ、ライオンやキリンが続きます。小さなりスやウサギや鳥たちもついてきます。動物たちの大行進です。

王様に従つて何日も歩きました。

ついに大きな大きな蓮池を見つけました。美しい色とりどりの蓮が咲き乱れる美しい池です。小猿達は我慢しきれずに池に飛び込もうとしました。その時王様が「待ちなさい！」と大きな声で止めました。

王様は「みんなよく見てごらん。池に向かつていろんな動物の足あとが付いているだろ。でも池からもどってくる足あとは一つもな

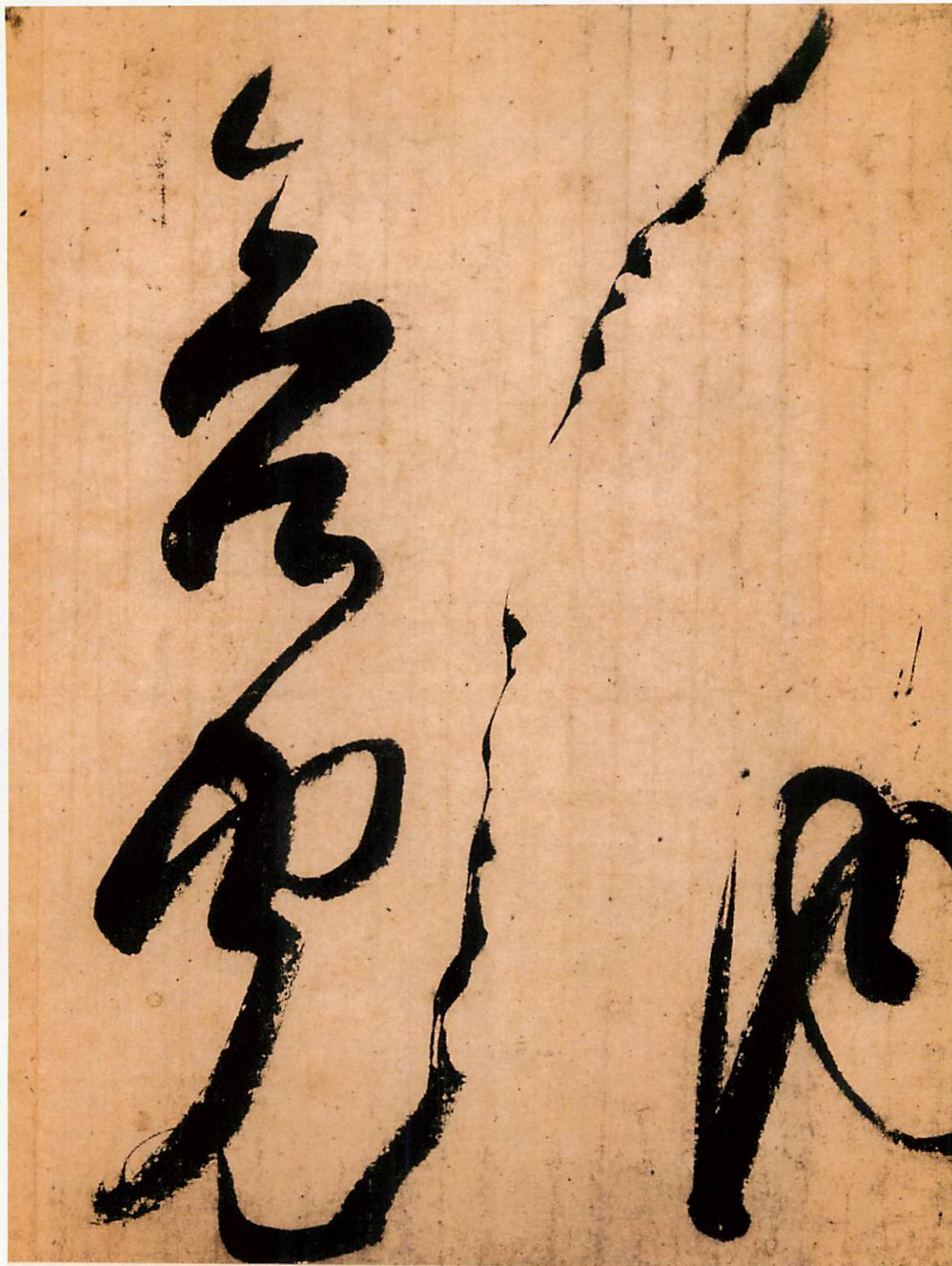
た。森が火事の時も洪水の時も猿の王様によつてみんな助けられてきたのです。この日照りの危機もきっと猿の王様が助けてくれるとみんな信じて今日まで動かずに待つていたのでした。





い。きっと魔物が住んでいて水を飲みにくる動物を食べてしまつたんだ。みんな葦アシを集めておいで。それをつけないで長いストローにして池に近づかず遠くから水を飲もう。子供や小さい動物からだ。」みんなは美味しい水をたくさん飲みました。池の水が減つてくると池のそこから大きな大きな鬼が出てきました。鬼は地団駄を踏んで悔しがりましたが、猿の王様と猿たち、そして森の動物たちは水をたっぷり飲んで元気になつて悠然と森へ帰つて行きました。

ジャータカ物語はお釈迦様の前世の物語です。お釈迦様の前世は猿の王や金の白鳥やときにはかわいいウサギなど様々な生き物でした。そして多くの善行と徳を積み重ねたのでやがてお釈迦様となりました。ジャータカ物語には日本の童話やイソップ物語のもとになるお話も多くあります。親が子供に読み聞かせるのにも最適です。



白麻紙に気迫溢れる筆が走る

大師會藏 『座右銘』

『弘法大師墨蹟聚集—書の曼荼羅世界—』の申し込み お申込お問い合わせは
電話 03-3705-7238 ファクシミリ 03-3703-4979

崔子玉座右銘について

阿部龍文

弘法大師は、『聾瞽指帰』に『崔子玉座右銘』を引用して、「蛭牙公子、好んで人の短を談じて十韻の銘を顧みることなし」と記しています。

「人の短を道う無かれ、己の長を説くこと無かれ。
人に施しては慎みて念うこと勿れ、
施を受けては忘ること勿れ」

この十韻の詩は、既に、奈良時代から親しまれていて、若い弘法大師も自ら座右の銘としていたものです。

崔子玉（七七一—一四二）は、後漢の人で著名な書家です。

この書は、大師がその若い時から親しんだ座右銘を当時貴重な白麻紙に、思い切り筆を揮つた稀に見る大字の草書です。

今、多くの断簡として伝えられていますが、元は高野山の寶龜院に秘蔵されていました。高野山の金堂の壁画を描き了えた狩野探幽は、その謝礼として差し出された二千両を辞退し、そのかわりに「施人慎勿念」以下八行十六字を

して伝えたといわれています。これは探幽が、寶龜院の春深から、大師流の書を学び、悉曇についても教えを受けていたからです。

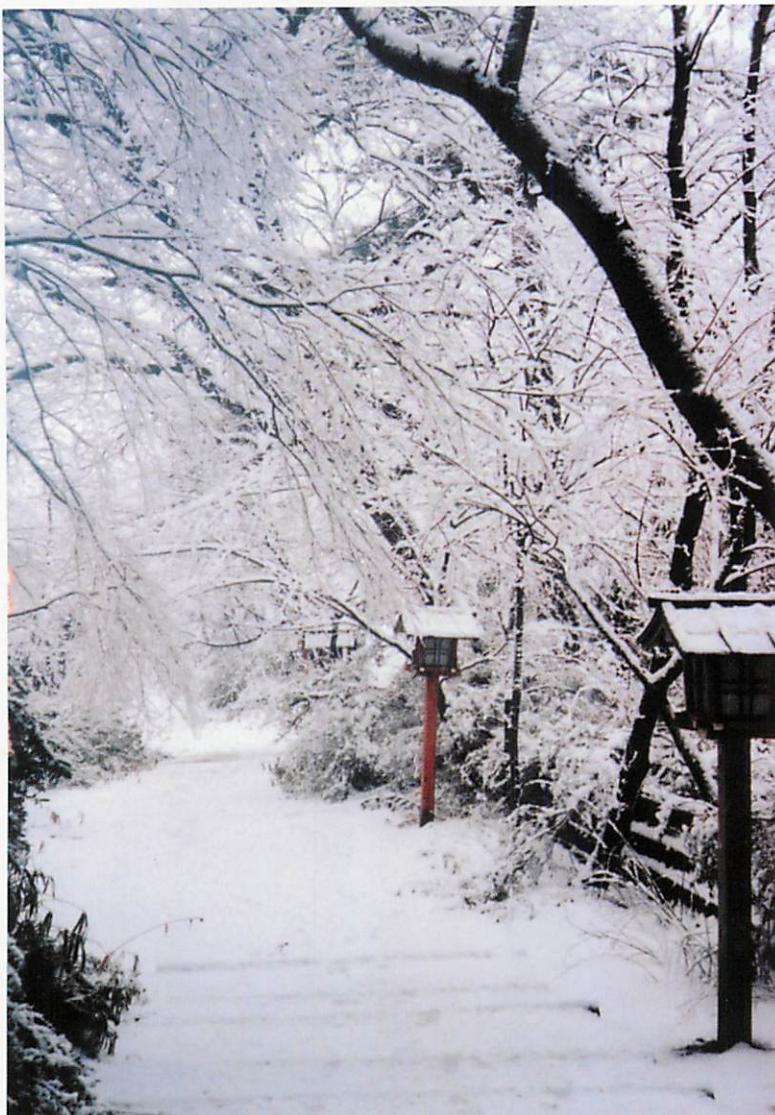
後に、益田鈍翁は、これを入手すると、毎年三月二十一日にこれを床に掛け茶会を催しました。これが大師会です。

現在、財団法人大師会の所蔵になり、茶会大師会は、根津美術館で開かれています。

本書では、この大師会所蔵の断簡も、寶龜院当時の姿で復元しました。

返しとして一巻にして家宝と

お釈迦様真理の花束



Even from afar the good are manifest like the HIMALAYA mountain.

To near the wicked are not seen like arrows shot by night.
He who sits alone, he who rests alone, he who walks alone,
he who is strenuous, he who subdues self alone, will seek
delight in the forest depths.

近道名顕

如高山雪

遠道闇味

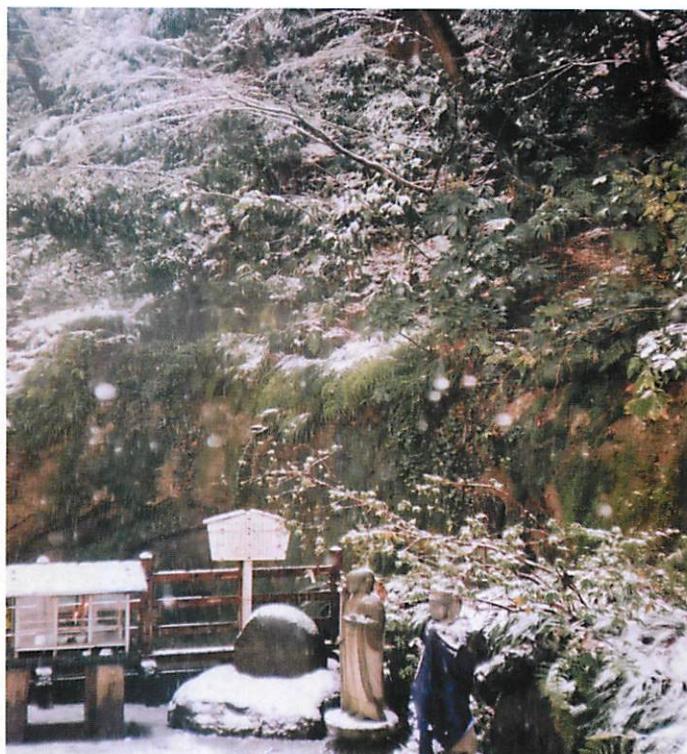
如夜發箭

一坐一処臥

一行無放逸

一守一以正身

心樂居樹間



善き人は
げに雪山のごとく

遠き国よりも

見ゆるなり

不善人は

まこと夜陰に

放たれし箭のごとく

近づけばとて

見えがたし

ひとり坐し

ひとり臥し

ひとり遊行し

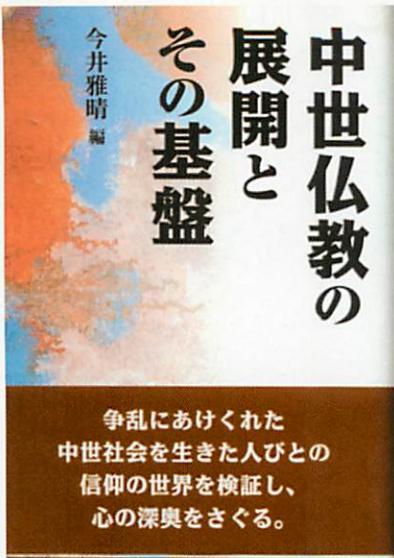
うむことなしひとり

自己をとのへ

林間にありて心楽しむ

『中世仏教の展開とその基盤』

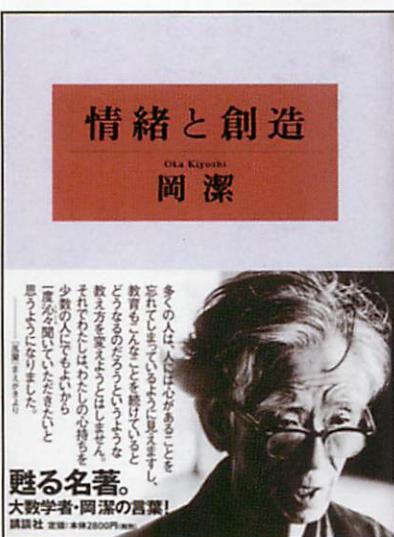
今井雅晴編 大蔵出版



日本の中世はヨーロッパの中世に比較して華やかな文化と宗教が絢爛と輝いた時代だった。本書は一つの宗派にとらわれることなく幅広く、中世を論じた好著。童子信仰の成立や鬼が島説話の検討、女性の恩愛の力と死者の蘇生など魅力溢れる論文が並び日本の中世社会が浮かび上がつてくる。

『情緒と創造』

岡潔著 講談社



今も教育について様々な問題がある多々の意見がある。今の教育では駄目だと言うことがわかっている人たちは様々に工夫を始めている。知識をいくら詰め込んでも人は育たない。泳ぎ方の理論や形を教えても、水泳は出来ないし、まして水の温度や波の怖さを知ることは出来ない。

心と智慧を置き去りにした教育に警鐘を鳴らす名著の復活。

『メモリーズ・オブ・ザ・フューチャーズ』

ウェイ・ウェイ・ウー
ワーナーミュージック



CDを探しているとき店内に流れている音楽は「亡き王女のためのパヴァーヌ」。続いてチックコリアの名曲「スペイン」。演奏するのは二胡の手ウェイ・ウェイ・ウー。中国文革の中で密かにヴァイオリンを学びやがて独学で二胡を学んだ彼女のデビューアルバム。デジタル音楽全盛の中で温もりのある温かい音は心を豊かに癒す。

『親日派のための弁明』

金完燮著 草子社

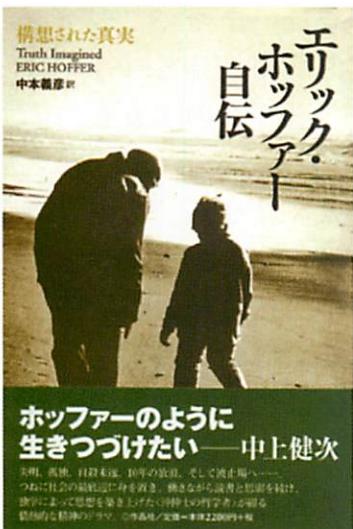


「日本は悪い国だった。」「かつて日本は悪いことをした。」といつた言葉をなんの検証もなく平然と子供に伝える無責任な大人がいる。その短絡な言葉が子供達の心をどれほど危険な方向に向けることも考えずに。明治から大正、昭和の初めまで世界は弱肉強食の戦場だった。歐米列強が欲しいままにアフリカとアジアを植民地としてきた。

歴史の真実を語ることから逃避した、日本の閉ざされた言語空間に風穴を開ける、韓国の気鋭の評論家による日韓の歴史書。

『エリック・ホッファー自伝』

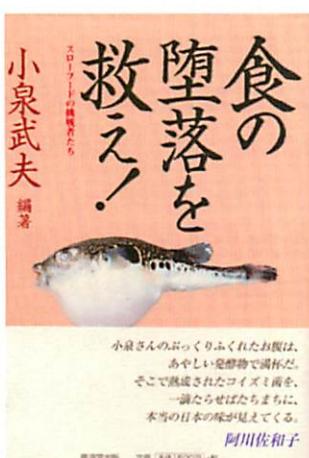
中本義彦著 作品社



子供の時に失明し十五才で奇跡的に視力が回復した著者は十八才で天涯孤独となる。様々な職歴を繰り返し港湾労働者として社会の底辺で働きながら自学で哲学を学び『大衆運動』（紀伊國屋書店）を発表しアメリカ社会に衝撃を与えた。その後も大学などからの誘いも断り、季節労働者として働きながら、独自の思想を極めたホッファーの自伝。

『食の堕落を救え』

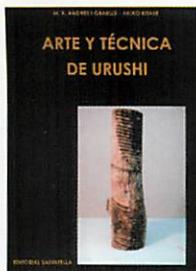
小泉武夫著 廣済堂出版



日本人は生命を引き換えて時間と買っている。衣食住すべてに早くくて安いものが求められる。なかでも食の堕落は目を覆うものがある。生命ともつとも直接結びつく食べ物が粗末なファーストフードやコンビニ弁当ではまともな人間は育たない。日本には世界に誇れる食文化がある。醤油、みりん、さけ、鰹節、漬け物。あえて時間かけて本物を作り続ける人たちを紹介する。

『スローフードの挑戦者達』

小泉武夫著 廣済堂出版



左の本はバルセロナ在住の北瀬明子さんがスペインで出版した漆の本です。漆は日本の文化の中でも最も古いものの一つです。縄文時代から伝わっています。大陸からの伝来ではないことは明らかです。その素晴らしい伝統技術が年々失われ後継者も減り続けています。漆だけではなく多くの職人がそのもてる技術を發揮する場も伝えるすべもなく消えていく現状です。スペインでは職人がとても大切にされているそうです。街を歩いていてドアの取っ手の専門店が有りました。真鍮や鉄で作られた伝統的な形のものからステンレスの斬新なものまでがそろっています。伝統的な取っ手も作り続ける職人がたくさんいて技術も受け継がれています。この本『ARTE Y TECNICA DE URUSHI』は国際交流基金が出資しています。国際交流基金は外務省の外郭団体ですが、芸術分野から日本語教育、日本研究まで幅広く支援する基金です。スペインの人々の日本への印象はいまだにフジヤマだけです。少し知的な人はゼンというそうです。唯の蕎麦を見て「オー、ゼン素晴らしい」と言われて絶句したそうですが、北瀬さんのような方の地道な活動が国際理解を深めます。

国際理解と言えば鯨の問題は未だに解決の兆しも見えません。しかし今年の国際捕鯨委員会は下関で開かれた事もあってテレビでも放映されニュースも多く流されました。その中で日本代表の小松正之氏の姿は圧巻でした。捕鯨反対派の理に合わない非科学的な意見を徹底的に論破し一步も妥協しない姿勢には感動しました。日本の外務官僚にこんな筋金の通った人がいるんだと思ったら水産庁の官僚でした。

残念ながら捕鯨は20対21という僅差で反対派が勝ちましたが、小松氏は反対派の人たちも長門市の捕鯨の村に連れてていき、鯨回向をして焼香までさせたそうです。この村には鯨墓もあり鯨唄もあります。

21世紀は地球人口の爆発的な増加と地球の砂漠化が加速度的に進み、食糧不足になることは自明です。その到来する未曾有の食糧難にたいして日本の備えは無きに等しい現状です。豊かな農地も減反で荒らし、無為無策が安全な日本の牛を狂牛病に感染させてしまいました。食糧の自給率は畜産が使う飼料まで考えると三割にも満たないという説もあります。

そろそろ日本外交もアメリカ辺倒ではなく食糧とエネルギーを自給する時期だと思います。

ヨーロッパの余裕と距離の置き方の上手い外交を見てその感を深くしました。

現代の道しるべ



10年ぶりに欧洲に行きました、といつてもスペインだけで、それもはじめてなので10年ぶりという言葉は正しくないかもしれません。

今回の旅行で一番感じたのは人々の暮らしぶりの活気と余裕でした。それでもう一つはアメリカとの距離感です。

左の写真はロサスというスペイン北端のフランスとの国境に近いリゾートの花です。友人がこのホテルをアメリカンエクスプレスという旅行代理店を通して予約をしようとしましたが予約できなかったそうです。予約が出来ないというより、その会社がこのホテルの存在を知らなかったようです。現地で合流した仲間はその場で飛び込みで部屋を頼んでいましたから部屋の空きはありました。ヨーロッパでは前々からアメリカ系のカードは使えない店やホテルが多くビザやマスターの方が圧倒的に使える範囲が多かったのですが10年たってもそれはあまり変わらないと思いました。

カードだけでなくヨーロッパの国々はアメリカとの距離を上手く保っていて外交でもエネルギーでも食糧でもアメリカに依存することなく充分にやっていけますので距離も置けるのでしょう。

スペインには世界的な企業は一社もありません。自動車産業もコンピューター産業も世界的なブランドも。しかし街には活気があり食べ物は新鮮かつ豊富で人々は暮らしを楽しんでいました。そして公園にはホームレスが一人もいません。もちろんスペインにもホームレスはいます。しかしみんなが憩う場である**公共の大切な財産**を、家が無いという理由でホームレスが居座ったり汚いビニールで住まいを作ることは許されません。彼らには街や市が提供する施設に入ることが義務づけられます。

レストランやカフェではウェイター（男性）が多くウェイトレス（女性）はほとんど見ませんでした。そのウェイターも40代から50代以上が圧倒的に多かったのも印象的ですが、何よりも彼らがプロ意識が高く常に自分の守備範囲のテーブルを見守っています。何か頼む場合は素早くテーブルに駆けつけます。日本のファミリーレストランはテーブルに呼び鈴があってボタンを押すとウェイターが来ます。これはこれで理にかなっていますが、多くのレストランでは最近ウェイターやウェイトレスを呼ぶのに苦労することが多いので、スペインのウェイター達のプロ意識の高さはとても新鮮でした。さてスペインでは多くの日本人が活躍しています。



次回発行は3月1日予定
特集毛越寺 曲水の宴

Editor ABE RYUJU Art Director and Photographer SHU FUJIWARA

Editorial Staff / SAMURO MIWA TOKUMARU KOJI MOTOYAMA KAZUFUMI OYAMA CHIGUSA SIMAZU RYUTOKU KAWASAKI YUKIKO

Homepage Design MASAHIKO OKA HIROYUKI HANAWA Making Mechanic SANMITUSHA+SHOEIDO Printing KORINKAKU

EDITORIAL OFFICE MANGANJI SHUGEISHUCHIIN S.H.C

〒158 東京都世田谷区等々力3-15-1 電話 03-3705-1622 ファクシミリ 03-3703-4979

Shingon Horonic Irowanioedo 第一巻第二十五号 平成十五年正月 一日発行

R100